

特別企画： 理美容業の倒産動向調査（2017年）

## 2017年の倒産は151件、過去最多

### ～ 大手との競争激化で中小倒産多発 ～

#### はじめに

昨今、一般消費者の被害が大きい美容関連企業が数多く取り沙汰された。なかでも2017年3月には、一般会員11万人が影響を受けた脱毛エステのグロワール・ブリエ東京が特定商取引法違反などを引き金に、約97億7200万円の負債（エステ関連業界では過去2番目の大型倒産）を抱え破産申請に追い込まれた。こうした事例に伴い、業界は近年、サービスの安全・健全化を求め、消費者保護施策を進める途上にある。

一方、「衛生行政報告例（2016年度）」（厚生労働省）では、理容所は約12万2000施設で前年度比1.6%減となったものの、美容所は約24万3000施設で同1.3%増と推移、傾向が分かれている。今後一層、大手と中小零細の二極化や企業再編の進行が見込まれ、その影響度が注目される。

帝国データバンクは、「理容業」と「美容業」における、2007年～2017年の倒産（法的整理のみ）について分析した。なお、本調査は今回が初めて。

※「理容業」とは理髪店、床屋、理容院、理容所、バーバー、「美容業」は美容院、髪結業、美顔術業、マニキュア業、ペディキュア業、ビューティサロン、ビューティドック、エステティックサロンをそれぞれ主業として手がけるもの

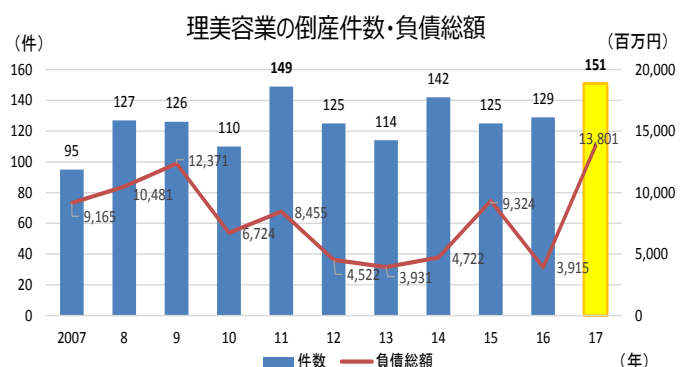
#### 調査結果（要旨）

□ 2017年の理美容業の倒産は151件判明。

2年連続で前年比増加となったうえ、2011年（149件）を上回り過去最多

負債総額は（株）グロワール・ブリエ東京の倒産により、138億100万円（前年比252.5%増）となり、過去10年で最大

□ 負債規模別に見ると、「5000万円未満」が140件と小規模倒産が92.7%を占めた



## 1. 件数・負債総額

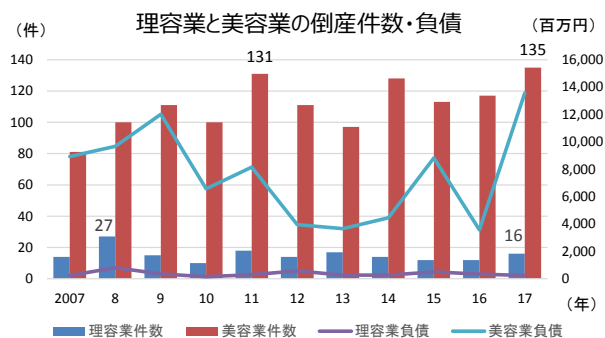
### 2017年は151件、過去最多

2017年の理美容業の倒産は151件となり、2011年（149件）を上回り過去最多となった。2008年以降は100件超で推移しているうえ、2016年から2年連続で前年を上回っている。

負債総額は、(株)グロワール・ブリエ東京（東京都港区、破産）の倒産により、138億100万円（前年比252.5%増）となり、ピークだった2009年（123億7100万円）を上回り、過去10年で最大。このうち「美容業」（135億6700万円）が98.3%を占めている。

一方、「理容業」は負債総額が最大だった2008年（8億300万円）以降9年間のうち6年で前年比減少。負債規模の小さな倒産が大半となっている。

【参考】



年別件数 (件)						年別負債総額 (単位:百万円)							
年	理容業	前年比 増減率(%)	美容業	前年比 増減率(%)	合計	前年比 増減率(%)	年	理容業	前年比 増減率(%)	美容業	前年比 増減率(%)	合計	前年比 増減率(%)
2007	14	▲ 17.6	81	80.0	95	53.2	2007	242	▲ 25.1	8,923	218.7	9,165	193.5
2008	27	▲ 92.9	100	23.5	127	33.7	2008	803	231.8	9,678	8.5	10,481	14.4
2009	15	▲ 44.4	111	11.0	126	▲ 0.8	2009	356	▲ 55.7	12,015	24.1	12,371	18.0
2010	10	▲ 33.3	100	▲ 9.9	110	▲ 12.7	2010	152	▲ 57.3	6,572	▲ 45.3	6,724	▲ 45.6
2011	18	80.0	131	31.0	149	35.5	2011	302	98.7	8,153	24.1	8,455	25.7
2012	14	▲ 22.2	111	▲ 15.3	125	▲ 16.1	2012	568	88.1	3,954	▲ 51.5	4,522	▲ 46.5
2013	17	21.4	97	▲ 12.6	114	▲ 8.8	2013	275	▲ 51.6	3,656	▲ 7.5	3,931	▲ 13.1
2014	14	▲ 17.6	128	32.0	142	24.6	2014	272	▲ 1.1	4,450	21.7	4,722	20.1
2015	12	▲ 14.3	113	▲ 11.7	125	▲ 12.0	2015	505	85.7	8,819	98.2	9,324	97.5
2016	12	0.0	117	3.5	129	3.2	2016	335	▲ 33.7	3,580	▲ 59.4	3,915	▲ 58.0
2017	16	33.3	135	15.4	151	17.1	2017	234	▲ 30.1	13,567	279.0	13,801	252.5

## 2. 負債規模別

### 小規模倒産「5000万円未満」が9割超

理美容業の倒産を負債規模別に見ると、2017年は「1000万-5000万円未満」が140件で最多、構成比は92.7%を占めている。次いで、「5000万-1億円未満」が5件（構成比3.3%）、「1億-5億円未満」が4件（同2.6%）となった。

一方、2007年からでは「50億円以上」の大型倒産は2件のみ（2007年・2017年発生）。

負債規模別	(件)											(%)	合計
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	構成比	
1000万-5000万円未満	80	95	94	89	125	103	97	119	100	105	140	92.7	1,147
5000万-1億円未満	9	18	18	10	12	15	9	15	11	17	5	3.3	139
1億-5億円未満	4	12	9	10	9	6	8	8	12	7	4	2.6	89
5億-10億円未満		1	3		1						1	0.7	6
10億-50億円未満	1	1	2	1	2	1			2			0.0	10
50億円以上	1										1	0.7	2
合計	95	127	126	110	149	125	114	142	125	129	151	100.0	1,393

### 3. 主な倒産企業

2017年の主な倒産企業

月	TDB企業コード	商号	負債額 (百万円)	都道府県	態様
3	984081127	(株)グローウル・プリエ東京	9,772	東京都	破産
4	985745393	HAIR DIMENSION(株)	325	東京都	破産
3	010539141	(株)カーサ	216	北海道	破産
3	900285792	(有)琉球予防医学普及協議会	122	沖縄県	破産
10	987381305	(有)オービーアイ	91	東京都	破産

2000年以降の主な倒産企業

年	TDB企業コード	商号	負債額 (百万円)	都道府県	態様
2000	982620546	(株)アール・ビー・エム	19,500	東京都	破産
2017	984081127	(株)グローウル・プリエ東京	9,772	東京都	破産
2007	530212203	アレックスエンタープライズ(株)	5,104	兵庫県	民事再生法
2004	982667570	(株)多賀志	5,000	東京都	民事再生法
2008	800406269	(株)グレースワコー	4,100	福岡県	破産

■ (株)グローウル・プリエ東京（東京都港区）は、首都圏を中心に脱毛サロン「エターナルラビリンズ」を展開していたほか、2012年からはまつげエクステサロン「MAQUIA（マキア）」の経営も開始。駅近くの好立地を生かし、20～30代前半の女性をターゲットに比較的安価な価格設定で顧客数を拡大して、2014年9月期には年収入高約27億100万円を計上していた。しかし、広告宣伝費や固定費などの販管費が嵩み、利幅が縮小するなど収益状況は低迷。急激な店舗数増加から経営管理面は手薄となり、取引先との支払いトラブルなども発生していた。こうしたなか、2016年には契約代金の一括支払いを月で割った月額料金を「月額制」と表示するなどの「虚偽誇大広告」や中途解約者への返金拒否が発覚し、特定商取引法違反で消費者庁から一部業務停止を受け、急速に資金繰りが悪化。9月には(株)RVH（東証2部）より借入を行い、スポンサー支援に関する基本合意書を締結していたが、借入金の返済ができないことから2017年3月24日付でRVHグループへ事業を譲渡していた。負債は約97億7200万円。このうち、一般会員は約11万人（約90億円）にのぼる。

■ HAIR DIMENSION(株)（東京都港区）は、「聖子ちゃんカット」の生みの親として著名な美容師が創業した美容サロン経営者。カリスマ美容師として有名な飯塚保佑氏らが中心となり「HAIR DIMENSION 四谷店」をオープン後、青山店、表参道店を順次オープン。「ナチュラルエレガンス」をコンセプトに、一時は当社所属の美容師が女優の藤原紀香氏のヘアを担当。顧客は知名度の高い芸能人や著名人、医師などの来店が多く一般顧客まで幅広い利用層があり、2014年11月期には年収入高約3億6600万円を計上していた。しかし、その後は景気動向の影響を受け顧客単価や来店頻度の減少、人気スタイリストの独立なども重なり業況が伸び悩んでいた。テナント賃貸料負担も重荷となるなか、2014年には青山店を閉鎖するなど厳しい経営を余儀なくされ、近時は実質的な活動を停止していた。なお、関連の(株)ヘアードイメンションホールディングスも破産手続き開始決定を受けている。負債は2014年11月期末時点で約3億2500万円だが、変動している可能性がある。

## まとめ

2017年の理美容業の倒産は151件となり、2011年（149件）を上回り過去最多となった。負債総額は、(株)グロワール・ブリエ東京（東京都港区、破産）の倒産により、138億100万円（前年比252.5%増）となり、過去10年で最大。このうち「美容業」（135億6700万円）が98.3%を占めている。理美容業ともに地域に根付き小規模運営を行う業者が多いことから、負債規模別では「5000万円未満」が9割超と小規模倒産が大半を占めた。

理美容業は顧客の高齢化や客単価の減少、来店サイクルの長期化が続くうえ、個人経営の後継者不足や低価格チェーンの台頭など懸念材料が残る。美容業は、店舗過剰化を背景に大手は割引クーポンの導入などの販売促進策が講じられてきたが、顧客数の減少や来店頻度の低下に加え、低価格競争などもあり利幅の確保が課題となる。

特に美容業界は顧客獲得競争が激しいうえ、広告宣伝費や店舗・設備など投資負担が大きいため、体力のない業者は立ち行かなくなるケースが散見される。今後は大手と中小零細の二極化がさらに進むとともに、大手業者が再編に動くケースも想定され、こうした傾向は一層強まることが予想される。

### 【 内容に関する問い合わせ先 】

(株) 帝国データバンク 東京支社情報部 : 伊佐 美波

TEL:03-5919-9341 FAX:03-5919-9348

E-mail:minami.isa@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。